

第180回 番組審議会

1. 日 時 平成21年3月4日(水) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲東の間」
3. 委 員 委員総数 13名  
出席委員数 10名(欠席委員数 3名)

○ 出席委員(敬称略)

谷口 誠(委員長)  
椎井 一意(副委員長)  
—以下50音順—  
斎藤 純  
斎藤 雅博  
東海林 千秋  
菅原 正二  
中川 真  
中原 祥皓  
村上 幸子  
吉田 浩次

○会社側出席者(6名)

内海 幸司(代表取締役社長)  
佐藤 滋樹(常務取締役)  
小原 忍(常務取締役)  
藤澤 利憲(常務取締役)  
前田 秀男(取締役技術局長)  
庭田 康宏(めんこいエンタープライズ 制作部)

○事務局 村田 重昭

4. 議 題 「山・海・漬」 城下盛岡旧町名ぶらり旅 ～仙北町かいわい～  
平成21年1月10日（土） 18：30～19：00放送

5. 議 事 概 要

今回は、「山・海・漬」 城下盛岡旧町名ぶらり旅 ～仙北町かいわい～について審議した。

各委員からは「城下盛岡旧町名ぶらり旅は、シリーズ企画として安定しており、毎回楽しみにしている。」「仙北町の大きな通りから一歩中に入ると、これまで知らなかった歴史やお店など新しい発見がたくさんあって良かった。」「高視聴率（20.3%）は、納得の出来映えだった。」「これからも、もっといろいろな町を紹介して欲しい。」などの意見が出た。

また「視聴者が自分もその店に行ってみたいと思った時のために、地図をもっと分かりやすくして欲しい。」「食べ物のお話が多すぎた。」との意見があった。

6. 議 事

○事 務 局

ただいまより第180回番組審議会を開催いたします。

それでは、議題に入らせていただきます。今回の議題は1月10日に放送されました、「山・海・漬」 城下盛岡旧町名ぶらり旅 ～仙北町かいわい～です。本日は、ディレクターのめんこいエンタープライズ 制作部 庭田康宏が出席しております。

それでは、谷口委員長、よろしくお願いいたします。

○谷口委員長

それでは、庭田さんから、番組の背景や感想などについて説明をお願いいたします。

○庭田ディレクター

めんこいエンタープライズ 制作部の庭田です。本日はよろしくお願いいたします。

めんこいテレビの長寿番組である「山・海・漬」は、1月10日の放送回で、歴代最高の視聴率20.3%を記録いたしました。1996年に放送を開始して以来、初めて念願の視聴率20%超えの達成となりました。

今回、このような高い支持をいただいた企画は「城下盛岡旧町名ぶらり旅」です。この企画は、過去に「内丸」「本町」「惣門」「八幡町」界限などの歴史や古い建造物、味どころを特

集してきました。今回の議題である1月10日の放送では「仙北町かいわい」を取り上げ、企画のコンセプトに沿って、老舗の蕎麦屋さん、菓子屋さん、それに明治橋のたもとにある「徳清倉庫」さんなどを紹介させていただきました。

視聴者から寄せられた葉書でも「近くを毎日通るが今まで知らなかったとか気になってはいたが、番組を見て勉強になった。」などの反響を多くいただきました。

視聴率の話に戻りますが、20.3%は、1月10日に放送された、岩手の全放送局の番組のなかで1位ということでした。夜7時からいわゆるゴールデンタイムに居並ぶ東京キー局の番組を抑えての好結果でした。しかし突然20.3%という数字をとった訳ではなく、前月の12月に当時としては最高の18.2%、続けて19.2%を取るという良い兆しがありました。20.3%は、そういった積み重ねのうえで達成した数字であったと思います。

視聴者層を調べると、年配の方や女性・主婦層だけでなく、キッズや学生、さらに男性層にも万遍なく支持をいただき、まさに家族みんなで楽しんでいる傾向がみられます。番組の年度平均視聴率では、2月までで14.1%と昨年度と比べても2.1%もアップしています。長く続いている番組なので安定した視聴習慣というものがついているものと思います。

今後ともスタッフ一同、視聴者の好奇心をくすぐる、良質の番組作りを心がけていきたいと思っております。

今日は皆さんにいろいろなご意見を伺い、今後の番組作りに活かしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

#### ○谷口委員長

庭田さん、ありがとうございました。私も番組を見まして20.3%というのは非常に頷けるな、という気がしました。では各委員からご意見を伺いたいと思います。中川委員からお願いいたします。

#### ○中川委員

今、委員長が仰られましたように、私もとても良い番組だったなと思っております。どうということかと言いますと、盛岡や岩手のことを知りたくて各局の情報番組を意識的に見るようにしていますが、各局それぞれの個性があって、エンターテインメント性の強いところとか、情報やインフォメーションに傾いたところとかがあるように思います。「山・海・漬」の場合は、私の印象では非常にうんちくというか、内容の厚みということを意識されているという

ふうに思っています。今回についても、例えばあの辺が昔は青物町と言って長い歴史を持っているところだとか、大正時代に鉄道の駅が出来た頃から町のいろいろなお店の動きが活発になったとか、そういう具体的な史実とか町の歴史というものが伝わってきて、とても良かったと思っています。今回はこのシリーズの9回目と伺っていますが、全部1回目から見てみたい、というふうに思いました。ひとつ思ったのは、仙北町の駅というのは、たしか原敬さんが陳情して出来たということ、本で読んだような記憶があります。原敬さんが住んで居たところは、駅のにぎやかな方の反対のところですね。番組で紹介された旧街道沿いの方が栄えていたわけですが、駅をはさんで反対側の原敬さんの住んでいたところの当時の様子なども紹介してもらえれば、なお面白かったかな、と思います。

仙北町は、私のように盛岡を良く知らない人間から見ると、市内の離れ小島みたいなところに、雰囲気のある街がぽつんとあるように見えるというのが、正直な印象なところですが、そういった謎が少し解けたような気がして、とてもありがたかったです。

#### ○谷口委員長

ありがとうございました。それでは、次に斉藤純委員からお願いいたします。

#### ○斉藤純委員

最高視聴率、おめでとうございます。私の知らないことも随分ありました。番組で使用した旧町名地図を提供した「文化地層研究会」の副代表を、私は務めているのですが、知っているつもりでいても、ああいう風に裏通りに入っていくと、知らないことが随分あるのだなということが分かって、面白く見ることができました。

この番組は安定した作り方をしているので、番組の作りそのものには、特に言うことはなくて、高視聴率を取るのは当然だろうなと思います。

先ほど、中川委員から、仙北町の駅は原敬さんが作ったというお話がでしたが、盛岡駅から1.8キロしかないところには、本来なら駅は作れないそうですね。当時は、そのことで批判されたらしいのですが、今となっては仙北駅があつて良かったなと思います。今だったらあのような駅はもう作れないですからね。

番組では「仙北町には血気盛んな気風がある。」というコメントがありました。中川委員の原敬の話しで思い出したのですが、仙北町には通りに面して古い床屋さんがありますよね。その床屋さんも原敬ゆかりの店なのです。第1回普通選挙のときでしたか、原敬が演説をし

に盛岡に来るということがありました。その時、原敬の敵の妨害があるのでは、という噂があつて、盛岡に防衛隊のようなものが組織されたそうですが、その組織のボスが仙北町の床屋さんだったという話を思い出しました。

今回は、仙北町の一本入ったところの紹介が多かったように思います。実は、仙北町は道路を拡幅して4車線になったことにより、コミュニティー崩壊を招いていて、道路計画・都市計画の悪い見本、反省材料として今注目されています。仙北町のようにならないようにしようというのが、街並の保存、コミュニティーの維持を進めている鉾屋町あたりの合言葉になっています。

#### ○谷口委員長

ありがとうございました。そうですね、原敬ゆかりの町だと今お聞きして、原敬をなぜ番組で出さなかったのか？という気は私もしますね。それでは、次に菅原委員からお願いいたします。

#### ○菅原委員

私事になりますが、めんこいテレビ開局1年後あたりから番組審議委員をやっているのですが、この「山・海・漬」の番組を立ち上げたときから、その事情は知っております。

最初にこの番組を見て、「週1回のこのペースだと、ネタを探すのは大変じゃないの？」というようなことを言ったことを思い出しました。よくぞ続きましたよね（笑）最近すっかりペースを掴んだとみえて、気負いがなくていいですね。

この「盛岡旧町名ぶらり旅」のシリーズも、力みがなくて凄く良いですよ。NHKの番組で、世界の町をただぶらぶらと紹介する番組があるのですが、ああいう番組は意外と面白くて、いつも好きで見えています。そういう観点からみると、「盛岡旧町名ぶらり旅」のような番組はとても良いと思います。過剰な演出や仕組んだようなものがあまりないような番組がいいですね、気楽じゃないですか。それをイージーだと考えるのではなく、私はこういった番組作りが案外いいのだという見方をしています。あとは自分の想像力と興味ですよ。近々あの駅前の蕎麦屋に行ってみようか思いますよね。そういうことがいいと私は思います。長く番組を続けているうちに、気楽にやるという、いい路線を掴んだと思います。こういう番組をもっと練って、もっと面白くしてください。やらせではなく、自然にやるというのは非常にいいですね、見ている方は勝手に想像を膨らましますから、それで良いのだと思いま

す。この調子で面白い映像を見つけて、益々良い番組にしてください。

それにしても、視聴率20.3%、よく取りましたね、おめでとうございます。なお一層の精進をされて、より良い番組にしてください。

#### ○谷口委員長

ありがとうございました。この「盛岡旧町名ぶらり旅」のシリーズは、もう9回目なのだと思いますが、この「山・海・漬」が人気番組であるならば、次にどのようなテーマやっていくのか？ということが課題になってくると私は思います。9回全てを見た訳ではないのですが、恐らく知恵を出せば、まだまだ紹介できるものはたくさんあると思います。岩手には素晴らしい食材がたくさんありますし、宮沢賢治の影響なのでしょう、新しい近代的な物のなかにも、東京にもないような外国の雰囲気をもった洒落た良い物があると思います。古いものだけでなく、ぜひそういった岩手の新しい文化も紹介していただきたいと思います。

さて、次は斎藤雅博委員からお願いいたします。

#### ○斎藤雅博委員

私もこのシリーズでは、身近なところでいつも新発見があり、楽しく見させていただいています。このシリーズも9回目ということですが、今回の「山・海・漬」のなかで私の一番の発見は「徳清倉庫」さんでした。外からは見ていたのですが、いったい中はどうなっているのかな？と思っていたところ、番組のおかげで内部を見ることができました。建物の内部の映像を見て、凄く歴史があることが分かりましたし、三階の展望室は非常に良かったなと思いました。

このシリーズで、前回は材木町界隈を紹介されたと思うのですが、その番組を見て、盛岡には川がたくさんあって、その川と岩手山が非常に馴染んでいて、いいところだなと感じていました。今回も三階の展望室からの北上川と岩手山の映像があって、やはり盛岡は川と山が合う町だなと感じましたし、あの展望室のシーンはとても良かったと思います。ただ、「徳清倉庫」さんの建物は一般公開されていないということで、とても残念でした。

青物町という町名ですが、旧町名であってもそういった町名を残しているということは、とても良いことだと思います。旧町名を一覧できる地図を番組で作るというのも、ひとつの方法ではないかな？と思いました。

味噌の量り売りの「みそ処・木津屋」さんには、ビックリしました。あのような形で今も

売っているのですね。量り売りの理由もちゃんと説明されていましたが、全然知らなかった  
ので、まだまだ自分の知らないことが沢山あるなと思いました。知的な好奇心で言うと、味  
噌の甘辛は塩の多さではなく、麴の多さで決まる、ということを番組で初めて知りました。  
先ほど庭田ディレクターは「好奇心」と仰っていましたが、こういったところが、この番組  
の良いところではないのかなと思いました。

一方、今回の番組は、食べ物関係の話題が多すぎたのではないかな？と感じました。今ま  
でのこのシリーズの番組と比較しても多いような気がします。もうちょっと他の、いろい  
ろなところが紹介できたのではないのかな？という感じがしました。

ただ、番組で登場した町の人たちが、「住みやすい町」「やさしい町」「地域のために」と言  
っていましたが、そういった言葉を引出せたのは、良かったと思いました。

私も仙北町は、表の通りを車でしか通らないのですが、一本裏の路地に入ると、普段、気  
がつかなかったところや、あらたな景観や姿があるということ、見せてくれるというところ  
が、この番組の非常に良いところだと思いました。次回もまた期待しております。

#### ○谷口委員長

どうもありがとうございました。私も味噌屋さんのシーンはとても臨場感があって良かった  
と思います。香りが漂ってくるようなシーンもあり、カメラワークも褒めてあげたいと思  
いました。次に、中原委員にお願いいたします。

#### ○中原委員

「山・海・漬」は522回目ということですが、私も土曜日のこの時間は必ずチャンネル  
を回して見えています。放送された日は、たまたま仙北町生まれの仙北町育ちの人間と一緒に  
見っていました。私は仙北町育ちではないのですが、地元出身の人の解説を聞きながら、町の  
変化や様子などを語り合えるという機会を得ることが出来て、非常によかったと思います。

酒の席での話しですが、昔、仙北町を通らないと盛岡の中心街に行けないということ、  
非常に威張って話す仙北町の人が居たのを思い出しました。私は町なかに住んでいたのも、  
“今畜生”と思いながらも、なるほどなあーと聞いたことを思い出しました。仙北町は印象  
の強い町ということなのだと思います。昔の風情も残っていますし、機会を見て自転車で見  
て回るには、格好なところではないかなと思います。

ところで、リポーターの女性のお名前は瓜田さんでしたか？その瓜田さんの語り口が随分  
良くなりましたね。食べ物屋に行っても、ただ「美味しい」というのではなく、落ち着いて

いて、コメントや雰囲気は別人のように良くなりましたね。とても成長したと思います。

番組に登場した人たちは、それぞれユニークで、盛岡人らしさがじわっと伝わってきました。30分間の番組を見終わって、ほっとするような雰囲気の番組でした。

番組を長く続けるのは大変だろうと思っていたのですが、ふと気がついたことがあります。地元の出版社で出している「もりおか物語」～何々かいわい～という全10巻のシリーズがあるのですが、それを参考にしているのかな？とは思いました。本を読むのとテレビで見るとでは、まるで違いますから、それはそれで良いと思います。

本も、テレビの「旧町名ぶらり旅」も、どちらも良いとは思いますが、先ほど谷口委員長が仰っていたように、視点を変えて、違うパターンというのも、ひとつ見つけて欲しいとは思いました。

ひとつだけ気になった表現があります。聞き間違いかもしれませんが、仙北町を「古都の趣」とう表現をしていましたので「ちょっと待てよ」と思いました。もしそのように表現をしていたのであれば、あの町は「古都」と表現をするのは絶対に似合わない町であります。

「古都」とは京都や鎌倉のようなところを言うのであって、仙北町は「古都」とは言わないと思いますので、気をつけていただきたいと思います。

全体としては素晴らしい番組だったと思います。

#### ○谷口委員長

どうもありがとうございました、私もリポーターの瓜田さんはあまり派手ではなく、品があつて、良いと思いました。ナレーションだけで世界遺産を紹介する番組が、他局でありましたが、やはり本人が画面に出た方が良いと私は思います。

では、村上委員からお願いいたします。

#### ○村上委員

実は私は仙北町の生まれ育ちでして、実際に住んでおりました。今は私も実家も引っ越してしまって住んではいないのですが、懐かしい通りやお店ばかりで、番組を見て、やはり仙北町の生まれ育ちが、自分の元になっているな、とあらためて感じました。

お蕎麦の北田屋さんとか山岸商店さんとか、虚空蔵さんとか、ど真ん中の取材ポイントだなと思いました。

仙北町と言うと、肴町とかの繁華街の人に田舎だと言われて、子供のころは悔しい思いもしたのですが、中原委員が仰るように、「仙北町を通らないと、城下盛岡には入れないよ。」

というのが、地元のおじさんたちの誇りだったことは確かです。

夏の送り盆の行事の「船っこ流し」ですが、その「船っこ」を作っているというのが、仙北町の誇りのひとつですね。「船っこ流し」の日が近くなると、地元町内会の手作りの船っこの屋台が2箇所に来れます。屋台の準備が始まると夏休みが近いなと子供心にわくわくし、「船っこ流し」が始まると夏休みも終わりになるので、ちょっと複雑な気持ちになる子供の頃の記憶が甦ってきました。そのような人の町だということを、この番組はあらためて感じさせてくれました。

仙北町というのは、商店街がなく、特に最近道路拡張になって様子が変わり、町としての顔がどういう風に外から見えているのかな？と思います。仙北町以外の盛岡の方には分かりづらい町なのかもしれません。

何気ない駅前のお蕎麦屋さんの北田屋さんが、駅と同じ94年の歴史があることを知って驚きましたし、徳清倉庫さんは、本当に立派ですね。子供の頃から中はどうなっているのかな？と、よく想像していました。お菓子屋さんの前澤屋さんは、子供の頃からおやつを買ってもらったりしていたのですが、ここも130年の歴史があることを初めて知りました。

仙北町にはまだ住宅街もあって、けっこう子供たちも居るのですが、その子供たちにとっても財産となるような番組になったと思いました。

青物町という町名が紹介されていましたが、街道筋であると同時に、北上川の船運の集積地として栄えたのが青物町というふうに子供の頃から聞いていました。そのため、街道筋から一歩なかに入ると蔵が建っていたり、かつては商店街もあったそうですが、次にまた仙北町を採り上げていただけることがありましたら、その辺にも光を当てていただければ、と思います。見ていて面白かったです、ありがとうございました。

#### ○谷口委員長

どうもありがとうございました。村上委員は、仙北町のご出身だそうですが、非常に実感をもって見られたのではと思います。

では次に、東海林委員からお願いいたします。

#### ○東海林委員

私としては、頑固な親父、古い建物、老舗の食べ物屋さんという三つのポイントをきちっと押さえていて、「ぶらり旅」としては、良い番組になると思っていたので、今回は三つとも

きちんと出ていて、良いまとめだったと思います。

「山・海・漬」は、土曜日の新聞をチェックし、番組タイトルを見て、その日番組を見るかどうか決めているのですが、この「旧町名ぶらり旅」の時は、チャンネルを合わせる人が多いと思います。

南の方面から盛岡に帰ってくると、明治橋の手前でいつも渋滞に遭遇するのですが、橋の手前の左側に古い保存建物があって、これはいったいなんなのだろう？とずっと思っていました。一般公開はされていないということですが、カメラが建物の中に入り、内部を見ることができて、本当に良かったと思いましたし、どういう建物かが分かり、感動いたしました。

盛岡はいろいろなところに保存建物がありますし、私の近所では長田町にある竹田邸というところが公開になりました。それらの保存建物が、もしたくさんの人が訪れて建物が傷むというのなら、テレビカメラで撮影して、その映像をこの番組のようにアーカイブとして残して欲しいな、と思いました。

「旧町名ぶらり旅」シリーズについて、先ほど吉田委員ともお話していたのですが、盛岡の歴史からすると、夕顔瀬橋から明治橋の内側というのは、南部の殿様の時代から400年ほどの歴史があったと考えると、仙北町は町の成り立ちからして、その約半分の歴史しかなかったと思います。明治橋を渡った仙北町のあたりは、商店街としては、町はずれということになると思います。歴史的な建造物というと「徳清」さんのあるあたりの場所で、あとはなかなか難しくなるのかな、と思います。「旧町名ぶらり旅」シリーズを歴史的なところから考えると、これからちょっと苦しくなってくるのかな？と勝手に危惧はしておりました。

自分の住む材木町の話になってしまいますが、ご年配の方が亡くなると、一緒に古い看板も捨てるが多かったり、裏にお蔵があっても、立て替えの時に、残された方の判断でそういった古い物が捨てられてしまっているらしいのです。もう一度、いろいろな形で取材をすると、埋もれているお宝が発見できるかもしれないですし、古いものを捨てようとしている人たちが気づかなかつた、歴史的な価値のあるものを取材できるかもしれません。ネタはまだまだあると思います。これからも「山・海・漬」を楽しみにしています。

○谷口委員長

ありがとうございました。さて、次は吉田委員にお願い致します。

○吉田委員

盛岡に住んでいながら、正直に思いましたのは、仙北町にもこんなに有名な話題の店があるのかという驚きでした。子供の頃からの仙北町に対する印象を申し上げますと、仙北町は盛岡の玄関口であり、道が狭くて非常に交通の往来が激しくて、なぜか古い大きな蔵があるところというものでした。とにかく盛岡のまん中から見ますと、随分遠いところだなというものでした。川が町を分断しているということがありますから、明治橋を渡らないと仙北町に行けないということで、非常に遠い地区だなという印象があります。私にとっては仙北町の裏側にあれだけ風情のあるものが、未だに残っているということも発見でした。ですから、盛岡に住んでいる人間ですら、と言うと失礼な言い方ですが、仙北町に関して、知らないことがたくさんあるということ、番組から知ることができました。神社仏閣などがあんなにあるのかとも思いました。

私が申し上げたいのは「山・海・漬」という番組は、「新しい発見」をさせるということと、あっそうかそんなところだったら「行ってみたいな」、と思わせるところに、番組の強さがあるなという気がします。そうでなければ20.3%などという視聴率が取れるものではないと思います。番組が強いということは、そういうことを言うのだと思います。

番組を見て、発見があり、ぜひ行きたいと思わせる、私も今度はあの駅前のお蕎麦屋さんに行きたいな、と思いましたし、よし、あの団子屋さんで団子を買おう、と番組を見て思ったものです。何を申し上げたいか？というと、それぞれの場所の地図が、テレビで紹介されていましたが、一瞬見ただけなので、盛岡に住んでいる者ですら分からないのです。もう少し紹介された場所が分かるような工夫をしていただきたいと思います。仙北町の駅からはこういう風に行きます、とか、町の全体図のなかに、紹介された場所を落とし込むとか、そのようなことをしていただければ凄く良いのではと感じました。

この番組を見て、次は盛岡のどこが取りあげられるのかな？と思いました。先ほどお聞きしたところ「上田通り」ということだそうですが、私は次のテーマにわくわくしています。これがこの番組の凄い良さなのですね。次が「上田通り」ということであれば、「壬生義士伝」の吉村寛一郎さんの関係をうまく取り上げたら、とても興味がわくと思います。ますますわくわくしてきました。

ということで、まだまだ盛岡にはたくさん掘り起こせるものがあると思います。ぜひぜひ、今後も頑張っていただきたいと思います。

○谷口委員長

どうも、ありがとうございました。私も、本当にわくわくするような番組が次から次に出来てくることを期待いたします。外からお客さんがみえたときに、盛岡を案内するのですが、行くところが限られてしまうので、番組を参考にして仙北町もコースに入れることを検討したいと思いました。盛岡の中心から車なら15分、電車なら一駅ですから割合と近いところに、そういったところがあると分かっただけでも素晴らしいと思います。

次に椎井副委員長からお願いいたします。

○椎井副委員長

私は盛岡に来てから日が浅いよそ者なのですが、よそ者にとっては、盛岡の有名な建物とか味を知るという意味では、ガイド的な意味で大変勉強になりました。ただ、私は多分ひねくれ者なのかもしれませんけれど、視聴率が20.3%と聞いてビックリしました。この時間帯だからなののでしょうか？あるいは、盛岡の人たちからすると、映像に映っている物を興味深く見られたからでしょうか？ひねくれた見方かもしれませんが、よくぞこれだけの視聴率が取れたな、と思いました。

これだけの視聴率を取ったとなると、注文的なことは言えないのだろうとは思いますが、30分の番組で、「歴史」と「味」の両方を紹介するとなると、どうやって深く紹介していくのか？突っ込みが難しいのだろうと思います。私は「山・海・漬」という番組は初めて見るものですから、そういう意味ではどちらかに絞って、歴史的な背景とか、伝統を守る苦労話とか、伝統を守り続けるためのアイデアとか、そういったものを深く絞って、掘り起こしてもらいたかったなというふうに思います。

それから、私のような盛岡に来て日の浅い人間には勉強になったのですが、本当に地元の方々にとっては、これで満足出来るのかな？と思っておりました。ところが、今までの委員の皆さんのお話をお聞きしましたら、お褒めの言葉ばかりだったので、私の認識が少し違っていたのかな？と感じました。

こういう番組は、よくいろいろなところで見られるものですから、めんこいテレビさんが作る番組ということで、もう一工夫の突っ込み、もうひとひねりがあっても良かったのではないかな？と、私自身そう思いました。

先ほど谷口委員長も仰っていましたが、古いものだけではなく、古いものの中でも未来に向けた取り組みとか、味で言えば、古い味のなかに新しい味を組み入れていく努力とか、そういうものも必要なのではないかな？と思って見ました。要は「新発見」と「驚き」というのが、やはりこの番組のポイントなのではないかな、というふうに思って見ました。私は初めて見る者ですから、今までの番組制作の狙いとかそういったものについての理解が無いので、ちょっとうわべだけになりましたけど、そういう印象を持ちました。

#### ○谷口委員長

どうもありがとうございました。椎井副委員長さんが仰ったように、私も良く20.3%の視聴率をとったな、と思いました。私は食べ物も好きですし、特に甘いものが好きなので、「おやき」などがテレビに出てくると、本当に食べたいな、とだいぶ着かれましたが、確かに、もうひとひねりあってもいいのではないかな？という気がします。

番組の構成がばらばらで、系統的ではないように思います。番組では、町の人言葉から、なにかひとつの考え方を入れようとしているように見えました。食べ物の紹介の間に「団結心」とか、「仲間意識」、「絆」というような言葉で、町の人々が持っている気質のようなものを、番組に反映させようとしていました。そのリンクージュがうまく言っていないと言うか、ひねりが足りないように感じました。最後は温故知新的なもので締めくくっている訳ですが、食べ物の紹介と町の人が出演して気質のようなものを紹介するというやり方では、主眼がどこにあるのか、はっきりしないような気がします。

市民のレベルがアップすれば、常道的なやり方ではアピールしないように思います。私の教えている大学の学生も非常にレベルが上がっています。岩手は他の地域に比べて、遅れたものではなくて、近代的なものを持っていると思います。温故知新ということからも、古いものばかりではなく、岩手の新しい良いものも紹介して欲しいと思います。

次の「山・海・漬」では、どのようなものが出てくるか、それによつてはこの番組もかなり発展すると思います。わくわくするようなものをどんどん紹介して下さい。それと、新しい岩手というものを紹介していただいて、20.3%はおろか、25%、30%の視聴率を目指していってほしいと思います。

では、欠席委員からのレポートを事務局からお願いいたします。

## ○事務局

久慈委員と、役重委員から届いております。

## ○久慈委員レポート

山海漬を拝見させていただきました。今回は「旧町名ぶらり旅シリーズの仙北町かいわい」ということで、このシリーズはいつも楽しみにしています。

私のように盛岡に住んでいないものにとっては、このシリーズは普段行かない盛岡の深い部分を見る事が出来ます。いつも盛岡だとカワトクで買い物か、夜飲んでいるか、のどちらかなので、本当の盛岡を知ることができる素晴らしいシリーズです。

仙北町は、今は無くなってしまった「岩手川」さんがあったところだと思いますが、道路拡張などで、伝統的な街並みが壊されるのはもったいないなど、その当時岩手川さんで飲みながら思っていたのを思い出します。

今回見たら、まだまだ伝統的な部分が残っていて素晴らしいと感じました。

今回もそうですが、出ていただいた方々に自分の町の印象を聞くのがとても良くて、住んでいる人が自分の言葉で自分の町を話すことは非常に説得力があります。

ぜひこのシリーズはどんどん続けてください。お疲れ様でした。

## ○役重委員レポート

仙北町の名は秋田の仙北郡の由来と初めて知りました。こういう導入部はいいですね。そして全編を通して冬の青空、いいお天気でロケ日和。案内役の楽しそうな表情、大げさ過ぎない自然なリードで最後まで爽やかに見ることができました。

蕎麦屋さん、お味噌屋さん、おやき屋台、和菓子屋さん、どれもとても美味しそう、そして印象に残ったのはどのご主人も岩手の人らしく、お世辞にもお話が滑らかとはいえない、あの口下手、あの武骨さ。カメラを向けられて視線がさまよってしまう、あの不器用さ。なんかいいなああとホッとしました。特に前澤屋の旦那さんがいい雰囲気ですね。中ではおやきの屋台のご主人が唯一、掛け合いがお上手で目立ってましたが。

ぜいたくを言えば、どのお店も出られたのがご主人ばかりだったので、奥さんやご家族、後継者、あるいはごひいきの近所の方など、そのお店や町を取り巻き、見守ってきた『名脇

役』にも一人でも二人でもご登場いただけたら、ご主人たちが異口同音に口にされた「人のつながり」という仙北町の良さがさらに際立ったのかなと思いました。

それから、こういう番組を見るといつも思うのですが、番組の最初からしっかりテレビの前に座って見る人は少なく、むしろ台所仕事の途中で立ち止まって見始めたり、あるいはチャンネルを途中で変えてそのまま見たりする人のほうが多いと思うのです。なので、仙北町とは盛岡のどの辺りなのか？ どうやって行けばいいのか？ という最も基本的な情報は、番組の冒頭だけでなく最後にも入れてはどうでしょうか。そうすれば、視聴者の頭の片隅にインフォメーションとして残りやすくなり、ただ見て終わりではなく、次に盛岡に行ったときにふと立ち寄ろうかなという実際の動きにもつながりやすいと思うのですが。

次回の番組審議会には『おやつ』にぜひあのおやきを…あ、でも焼きたてじゃなきゃダメですね！（笑）

#### ○谷口委員長

ありがとうございました。最後にひとつだけお話させてください。私の居る岩手県立大学の学長室から見る岩手山は、本当に綺麗です。皆さんそれぞれ、ご自分のところから見た岩手山が一番綺麗と仰るのですが、全然問題になりません（笑）全国の大学の学長室からの景色としても、恐らく一番だと思います。電線も見えず、防風林のカラマツ越しに素晴らしい岩手山が見えます。桜の季節には、カラマツの緑を背景に桜が映えて、とても綺麗です。どうかわくわくするような番組をお作りになる時に、あの素晴らしい岩手山をぜひご紹介ください。

本日はどうもありがとうございました。これで番組審議会を終了させていただきたいと思っています。

#### ○事務局

今回の審議会の模様は、3月14日（土）朝4時42分から「めんこいテレビ番審リポート」として放送いたします。次回は3月4日（水）を予定しております。本日はありがとうございました。

7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置  
特になし

8. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日  
\*平成21年4月9日(木) 産経新聞 東北版

\* 平成21年3月14日(土) 午前4時42分から4時45分まで「めんこいテレビ番  
審りポート」内で放送

\* 据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

9. その他の参考事項  
特になし